



2023年12月

JA 尾道総合病院 病院長：田中 信治  
副院長・がんセンターボード運営会議長：花田 敬士  
診療情報管理科 がん登録室

今回のテーマは **子宮頸がん** です。

## 【“子宮頸がん” における 院内がん登録ルール】

UICC TNM 分類 [第8版] “子宮頸部” での病期分類適応対象は**癌腫 (Carcinoma)** です。

※肉腫は、“子宮肉腫”で登録。

### ◆ 局在コード

右の表は ICD-O-3 の局在コードです。

膣の上皮は重層扁平上皮、子宮頸部の上皮は高円柱上皮です。この上皮の境目が子宮頸部にあり、UICC TNM 分類 [第8版] では上皮の違いで腺癌なら C53.0(内膜部)・扁平上皮癌なら C53.1(外頸部) と分けて付与する方法が

設定されています。しかし、重層扁平上皮と高円柱上皮の境目は年代によって移動するため、院内がん登録では、子宮頸部の局在コードは C53.9 のみとしています。

ICD-O-3 局在	診療情報所見
C53.0	内頸部
C53.1	外頸部
C53.8	子宮頸部の境界部病巣
<b>C53.9</b>	上記部位の記載が全くなく ”子宮頸部”の記載のみのもの

### ◆ 形態コード (病理組織型)

\* ICD-O3.2 版では、Squamous intraepithelial neoplasia, grade II (CIN 2 に相当)、HSIL が「8077/2」のコードに分類されましたが、がん登録では「CIN 2」「HSIL」の診断のみの場合は「登録対象外」とし、「CIN 3」の記載があれば「8077/2」でコードを付けます。

\* 腺癌,HPV 関連の形態コードについて、WHO で示されているコードが ICD-O3.2 版にはないため、院内がん登録では 下記の HPV 関連のコードは「8140/」を付与します。

病理組織名(日本語)	英語表記	WHO 形態コード	がん登録 形態コード
上皮内腺癌,HPV 関連	Adenocarcinoma in situ, HPV-associated	8483/2	8140/2
上皮内腺癌,非依存性	Adenocarcinoma in situ, HPV-independent	8484/2	8140/2
腺癌,HPV 関連	Adenocarcinoma, HPV-associated	8483/3	8140/3
腺癌,非依存性,特定不能	Adenocarcinoma, HPV-independent NOS	8484/3	8140/3

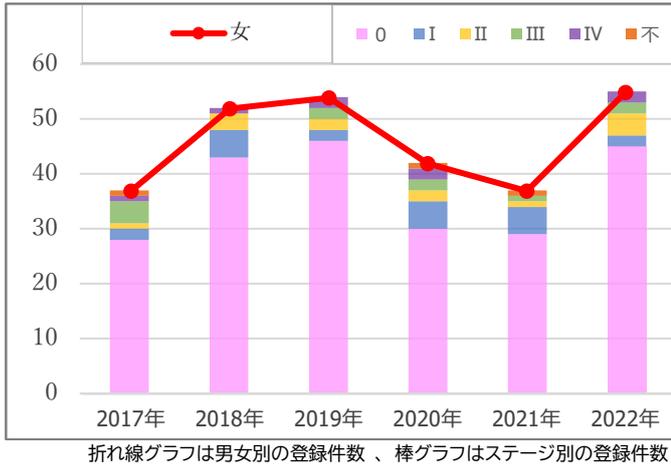
### ◆ 進行期分類

院内がん登録は、**UICCTNM 分類【第8版】**に従って登録します。

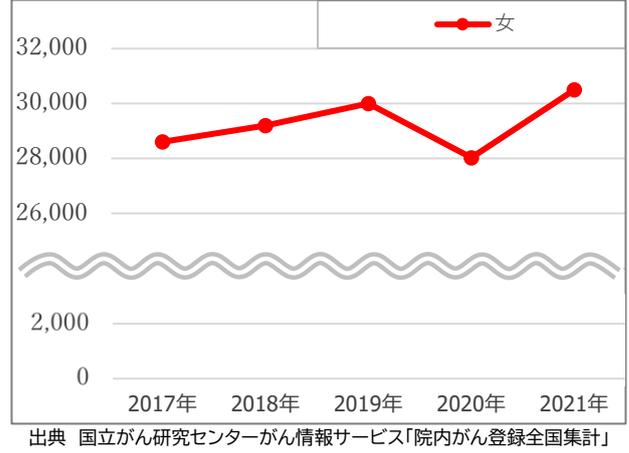
UICC【第8版】の T 分類に記載されているのは **FIGO 2008** の進行期分類です。

2020年に発行された**子宮頸癌取扱い規約 臨床編 第4版**に記載されているのは **FIGO 2018** の進行期分類で、理学所見だけでなく画像所見や病理学的所見も加味して総合的に病期が判断されることとなりました。これにより、子宮頸癌取扱い規約と UICC【第8版】で Stage が異なるようになったため、院内がん登録では 2023 年症例から FIGO 2018 の情報も「**項目番号【699】腫瘍情報テキスト**」に入力することになりました。

◆当院の子宮頸がん登録件数 と ステージ別 登録件数

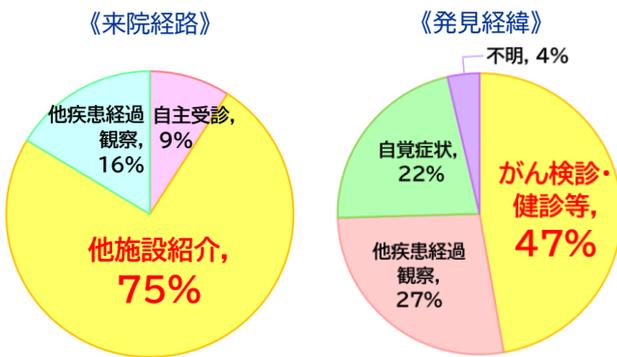


◆全国集計：がん診療連携拠点病院等における 子宮頸がんの全登録数 (男女別、都道府県推薦病院、小児がん拠点病院 6 施設、任意参加病院を含む)

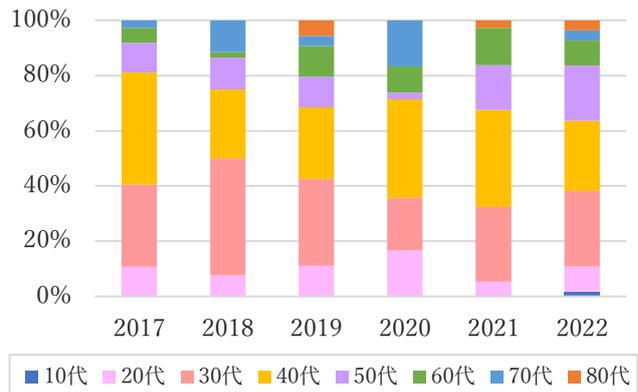


左上の棒グラフは、当院の登録件数を Stage 別で表記したものです。子宮頸がんは Stage 0 の割合が多いことがわかります。折れ線グラフは登録件数の推移ですが、2020 年に登録件数の減少がみられます。右上の全国集計も現象していることから、新型コロナウイルス感染症の影響が考えられます。

◆当院の 2022 年 子宮頸がん 登録状況より



《ステージ別 年齢割合》



子宮頸がんは「マザーキラー」ともよばれ、20～40 歳代の子育てや仕事に忙しい若い年代に発症すると言われています。当院では 30～40 代が最も多く、次に 20 代・50 代が多くみられます。

発見経緯としては、がん検診・健診などが 47% と多く、次に検診等で「HSIL」や「CIS2」で要精査となりその経過観察過程での発見や妊娠を機に発見されることが多いという結果でした。

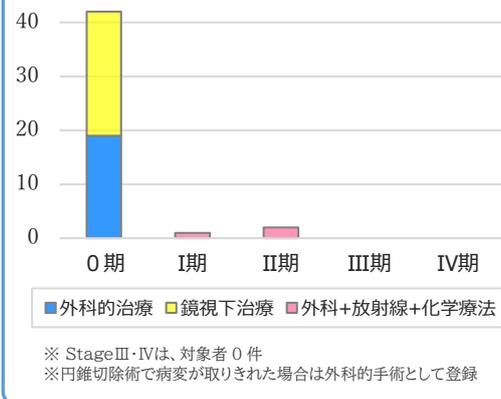
HPV ワクチンについて

子宮頸がんのほとんどは、HPV (ヒトパピローマウイルス) というウイルスの感染が原因であることがわかっています。このウイルスは性的接触により子宮頸部に感染します。HPV ワクチンは、HPV の感染を予防するワクチンです。しかし、すでに感染したウイルスを排除する効果はありません。そのため HPV に感染する機会の少ない早い年齢でのワクチン接種が有効です。

現在 小学校 6 年～高校 1 年相当 の女の子は、HPV ワクチンを公費で受けられます。また、過去に定期接種の機会を逃した方も、同じように公費でワクチン接種することができる制度もあります。



《ステージ別 治療内容》 初回治療開始+継続のみ集計



※ Stage III・IVは、対象者 0 件  
※円錐切除術で病変が取りきれた場合は外科的手術として登録

次回は「前立腺がん」についてです。